

タケモル外断熱工法

V S F工法

タケモル目地補強工法

タイルガード工法

タケモル・ラスモルタル補強工法

タケモルネット貼り工法

タイルガードネット工法

タケモルピンネット工法

INDUSTRIAL METHOD

工 法



ラスモルタル外壁の剥落防止工法

④ タケモル・ラスモルタル補強工法

国土交通省 新技術情報提供システム NETIS 登録技術
NETIS 登録番号：KT-160145-A

タケモル・ラスモルタル補強工法とは

防火目的であるラスモルタル壁の剥落安全性を強化するラスモルタル壁の剥落防止工法

一般にラスモルタルは簡単な金属で軸組に留められているため、大きな地震ではひび割れやモルタルの剥落が生じて建物耐力が低下し倒壊の危険が増大します。モルタルの剥落は火災や多くの人命、財産を奪う非常に大きな要因となっています。タケモル・ラスモルタル補強工法はこれらの問題を考慮して開発された、耐震効果を持つラスモルタル壁の剥落防止工法です。

工法の6つの特長

■ ラスモルタルのひび割れ、剥落を防止し類焼から守る

■ 既存塗膜の局部除去による湿分の放出と改修層との接着力向上

■ タケモルTM-100とタケモルネットでラスモルタル層を強固に補強

■ 平滑な塗装下地の形成と長期にわたる美観の維持

■ 木造下地、鉄骨造ラスシート下地のモルタル壁に適用

■ 全国の組合員による責任施工体制と第三者損害保険の適用



ラスモルタル壁の剥落を防止し、耐震性の強化と建物の耐久性向上を図る

木造や鉄骨造の外壁モルタルは防火を本来の目的としていますが、地震等の影響で接合具などの劣化により剥離、剥落することがあります。神戸・淡路大震災では、ラス網やステーブルなどの下地劣化も一因してモルタル外壁の崩落が顕在化しました。モルタルの脱落は、建物耐力が低下して倒壊の危険が増大したり、火災や人命、財産を奪い、消火、救命救急、避難などを妨げる要因にもなるといわれています。



写真提供：阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク

1

タケモル・ラスモルタル補強工法は、モルタル外壁を下地に留めつけている劣化接合具の補強を目的に、座金を介したビスで外壁モルタルを軸組みなどに緊結し、モルタルの剥落防止と耐震性の強化を図ります。

2

部分的に既存塗膜を除去して壁内湿分の放出を図りつつ、板状性の乏しくなったラスモルタル層をタケモルネット層で補強し、一体化させます。

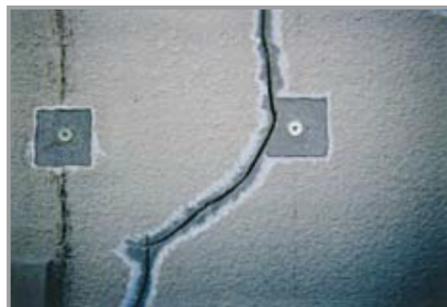
■ ラスモルタル壁の補強工事例

竣工時よりラスモルタル壁に多くのひび割れが発生し、幾度となく補修工事は行われていたが一向に解決せず、冬期には結露が激しくなった。タケモル・ラスモルタル補強工法で全ての問題が解決しました。

改修途中



ひび割れの拡幅作業



ひび割れの拡幅作業によりモルタル層に含浸している水分が滲出し、濡れ状態になる。

改修後



タケモル・ラスモルタル補強工法完了

居ながらの外壁改修が可能

タケモル・ラスモルタル補強工法は、居ながらの改修が可能となり廃材の発生がほとんどありません。

■ 施工手順

1 バイオハクリREによる 既存塗膜の除去



マーキング点を中心にローラー等で塗布する。(約200mm×200mm)軟化した既存塗膜をスクレーパー等で除去しモルタル面を露出させる。

2 座掘り



座掘カップを使用し、露出した既存モルタル面を下穴を中心に径50mm、深さ5mm程度に座掘りする。

3 ビスの挿み込み



TMワッシャーを介して専用ビスでモルタル座掘り部を受け部材に定着させる。

4 埋戻し



座掘り部、ひび割れ拡幅部をブローヤや刷毛等で清掃し、タケモルフィラーを塗布後、SBR系ポリマーセメントモルタルで面に埋め戻す。

5 全面水洗いの後、 タケモルフィラーの塗布



全壁面を高圧水洗浄後タケモルフィラーをローラー、刷毛、吹き付け等で塗布する。

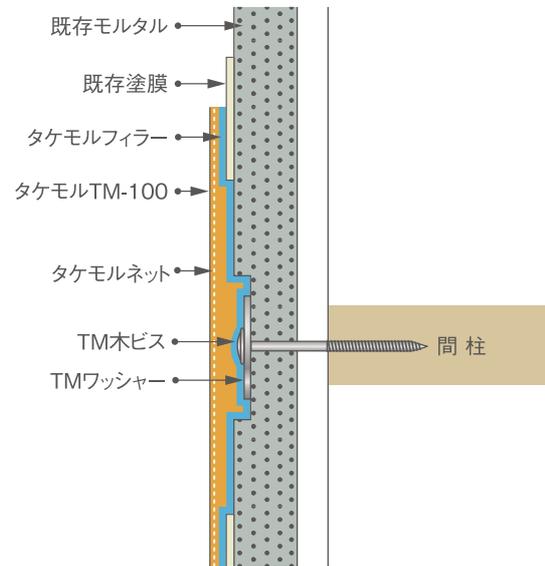
6 タケモルTM-100塗付けと タケモルネット伏せ込み



タケモルTM-100を約2mm厚に塗付け順次タケモルネットを当接しその上から金ごてで押さえ、タケモルネットをタケモルTM-100に伏せ込む。伏せ込み後こてむらを直す要領でタケモルTM-100を適宜の厚さに塗付け、平滑に仕上げる。

■ 施工断面図

木 造



鉄 骨 造

